

れば他は其の日具の日の早業に収入の金指を消費しても暮らして行ける。所謂嶺山労働者にとつてはこうした生活方法も亦忘れ難い懸力である。だから四疊半一間に家族数名が夢遊なし、一ヶ月診指圓足らずの収入しか無くとも、彼等はそれに對して特に方策を講じやうほしない。他所へ行つては働けない者と對してその資本氣分に浸たりたい者より成立つこの互助會の運動は特に困難である。

大手筋灰坑中にも麻生、織内の如くまだ返城手當の削減すらない賃銀も壹圓前後の設備具の他も寧ろ互助會系に近い程度のももある。これは中間的な存在だ。現代科學の粹を盡して能率百パーセントの増進に熱中し、月収七拾圓以上の坑夫を相負有してゐるやうな、所謂優良嶺山も一方にはある。此處等の従業員は灰坑地に於ける勞働貴族として落付を不し外権によつて生活が監視されて

ぬること、勞働條件が工場労働者に比較して尙劣悪であることも氣にかけず至極平極である。併し我々は其高賃銀（？）と能率の百パーセント發揮との影に米國のフォード工場が示す如き短時間労働不能に陥入る暇人を作り出す缺陷があることを見逃してはならない。彼等は今それに氣付かない。彼等の間には會社の指針に依る共済保険や灰坑を一隊とする軍隊的な特殊な組織が作られて居るそれは凡ゆる意味に於ける非常時に灰坑を守るべく活動する。だから決して彼等は簡単なアジビラ程度のものに依つて信念（？）を換されない。會社の統制は坑夫の日常生活にまで喰ひ入つて殆んど軍隊同様に行はれてゐる。かかる灰坑の従業員に對しては賃金値上、労働時間の短縮等の如き労働條件の根本に觸れるか如き問題は殆ど意味をなさない。彼等は日常生活のこまごましましたことに非常な興味を持つてゐる。